

やながわAIR事業2023

たゆたうからたち

記憶をつなぐ 過去から現在、未来

調 原作

目次

はじめに

↳ ステートメント

プロジェクト概要

↳ ① 旧喫茶の復活

↳ ② ワークショップ

↳ ③ 演劇

↳ ④ 展覧会



はじめに

タイトルの”たゆたうからたち”について

”からたち”は、柳川では白秋も取り上げており様々な場所でその名を目にする柑橘系の果物の名称ですが、ここでの意味は、旧喫茶の名前に由来しています。

このからたちで記録された言葉や絵がまるで水路にたゆたいながら揺らぎ進み、それを拾い次世代の子達に表現として繋がっていき、最終的に展覧会として届ける形をイメージしました。

揺らぎながらも進む様がまるで舟が進む様子にも思え ”たゆたう”という表現にしました。

タイトルでは、”たゆたうからたち”と繋げ一つの造語の様な形にするとまるで詩のような印象にもなります。

起点となる言葉が様々な表現や解釈を経て届いてほしいという観点からつけました。

ステートメント

地方における観光産業は経済的にも生命線となる産業の一つである。

現在ではsnsなどを通じ世界に直接発信される事で日本国内のみならず諸外国の人を呼び込み、そういった人々が落とすお金が地域を活性化させるのである。7~80年代は商店街が最盛期であり、そこは、産業と文化の中心地であった。

08年頃には、少し離れた場所に大手のショッピングモールや御花周辺に人が訪れるようになり、川下りや鰻などの食のブランドが生まれ、中心は徐々に移り変わる事になる。柳川駅から、直接、川下りや御花へのアクセスが出来るようになり、かつて繁栄していた商店街の灯りは消えていった。

また、現在、川下りの船頭の平均年齢は 70歳を超え、コロナ禍で辞めた人も多く、次世代の成り手が居ないという状況におかれているのである。いずれもコロナにより良くも悪くも社会が変容し、人々の行動パターンも変化していく中で日本が抱える地方の問題と一致する。共通の課題として、次世代へのバトンを渡す事が出来ない事でそれまで循環していた文化や社会構造が寸断され、このままだと、やがては否が応でも消滅する未来を予感させてしまう。

今回、上記の様な問題意識の中から世代を超えて繋いでいく事に主眼をおき、過去から現在、未来へと繋げる過程を可視化する。起点となる喫茶店に訪れた人々の言葉や絵(写真)、思い出などを身体表現へ転化させ、最終的に演劇や映像作品として発表いたします。

プロジェクト概要

① 旧喫茶の復活 (抽出)

旧喫茶店を復活させ、思い出などを抽出し、映像や音声に記録する。それらの記録された言葉や映像はaiなどで無作為に生成された言葉や絵に変容する。(人の意識が介入すると偏りがでてしまう。したがってaiなどに決定させる)

受け手がどう感じるかに帰結、問題提起をお客さんがもつ、色々繋がっていく、作為的でなく、事実だけを抽出、接続していく部分に人間性を注入。

② ワークショップ (変容・選定)

①で抽出した言葉や写真(絵)を用いて床にばら撒かれた紙、ホワイトボードなど、エチュード(台本がない芝居)をワークショップで行う。

→ 旧喫茶の常連や柳川に根付いた人の会話から抽出された言葉や絵等を元に演劇する

③ 演劇パフォーマンス (組込)

瀧本氏が手掛けたFLOATという舞台を今回の抽出した要素を取り込み演劇を行う。
劇は冒頭、水の上に浮いた畳の上にいる事から始まるワークショップで演じたセリフを更に抽出し、日吉神社南側水路でのパフォーマンスに繋げていく。

④ 展覧会 (完成)

これまでの過程の中で記録された言葉や演劇の要素を用いて空間インスタレーションとして制作及び発表する。起点となる記憶から出た言葉や絵が様々な表現で解釈され繋がっていき、変容しながらも過去から未来へと繋がるさまを可視化する。

プロジェクトチーム紹介

調 原作

美術家、音楽家、webエンジニア

本展覧会では、全体的な構想・展覧会への作品制作を担当する。

主に、2010年代前半までは音楽でCD制作や公演を行ってきて、2016年頃より音や装置、映像を使った作品を発表するようになる。

■近年の主な展覧会

2022

[layer #1 64.4216364,-21.9425002](#)

[繰り返しの世界で色彩を探す](#)

[サウンドデザインの歴史オトのはじまりを紡ぐ展](#)

2023

[suito ART STREET vol.3](#)

[茶の衣、流浪の露を極点にみる](#)



瀧本雄壺(雄一)

2000年劇団池田商会(福岡市)結成以来、劇団の中心メンバーとして池田商会のために多数の作品を書き下ろし、演出も担当。現在劇団池田商会代表。

このほか、クラーク記念国際高等学校演劇部顧問を務め、第45回全国高等学校総合文化祭演劇部門にて作・演出を務めた「FLOAT」は最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞。シニア劇団かっこん党、福岡市高齢者劇団シルバーパンサーの作・演出も務める等、世代を超えた演技指導に携わっている。



クラーク記念国際高等学校演劇部 (TIBC福岡校パフォーマンス専攻)

2019年創部以来、各種大会にて数々の作品を発表。

2021年には、演劇作品「FLOAT」を発表。同作品は演劇の甲子園と呼ばれる全国高等学校総合文化祭(全国大会)にて最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞。NHK青春舞台にて全編ノーカット放送され、話題となった。なお福岡市の高校として、全国優勝は初、通信制高校としても史上初の快挙となる。以来現在に至るまで県大会四年連続出場、九州大会二回出場、福岡県教育文化表彰団体の部を受賞するなど、現在も勢力的に作品を発表している。

毎年発表される新作は部の顧問であり、(劇)池田商会代表の瀧本雄吉が作、演出を務め、現代に生きる高校生たちの悩みや、マイノリティに寄り添った作風として知られる。

現在部員20名。



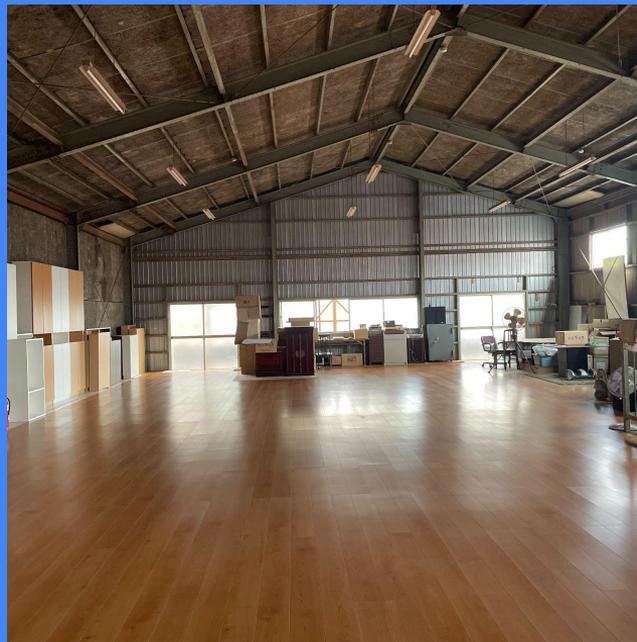
城野敬志

2006年より福岡市のアートスペース「共同アトリエ3号倉庫」にて活動を開始。2006年に当時、元ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズの風倉匠がディレクターを務めていた、共同アトリエ3号倉庫にメンバーとして加入し作家活動を開始。2007年に開催した、音楽、メディアアート、パフォーマンスの複合イベント「mook tank vol.1」をきっかけに展覧会やイベントの企画を始める。2008年に実施した九州全域のアートスペースを車で巡り、各地のアーティストとともに交流会やイベントを行う企画「琴姫プロジェクト~九州アートを探す旅~」実施以降、“九州”を意識した企画を展開していく。2009年からは、佐賀大学との関係によって、佐賀県でのアートプロジェクトを多数行う。2011年に同県で開催した「呉福万博 2011」以降活動を休止。2019年に art space tetra の運営に関わることになり活動再開。近年ではオンラインイベントの開催や、海外の展覧会に作品を出品。2021年からは1920年代に行われた日系コロンビア移民の調査や、交流展なども行い、枠組みにとられない活動を行う



要点

世代を超えて思いや記憶を繋いでいく事に主眼をおき、過去から現在、未来へと繋げる過程を可視化し、柳川という都市を再考する切っ掛けとしたい



ありがとうございました

連絡先:

調 原作

連絡先:

yanagawa.air.project@gmail.com

web:

<https://monogs.net/>

